

様々な文化が混じり合い
クレオール化するカリブ海地域、
その中心的存在がハイチである。



カリブ海諸国ではクレオール化が進みましたが、ハイチはその母体となった国となります。国土面積は27,750平方キロメートル、人口1,150万人のハイチは、奴隷の反乱から立ち上がり、宗主国に勝利した最初の主権国家として歴史に名を残しています。3つの文明（ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ）が交わって生まれたハイチ文化は、人類史上最も多様性のある伝統に基づくユニークなものが溢れています。その文学、音楽、芸術面における豊かさは、この国が長年直面してきた経済的停滞や制度的困難とは対照的です。トゥーサン・ルーヴェルチュール、デサリーヌ、クリストフ、ペションの夢であった、いつの日か自由で豊かな国を実現するという希望は、今も変わることはありません。



©Expo 2025

ハイチ館



自由が普遍的な功績となった地

展示コンセプト

カリブ海に浮かぶ国々の中で、ひとときその名が人々の記憶に残っている国がハイチです。ハイチは自国の領土で自由を求める闘いに貢献しただけでなく、コロンビア、ベネズエラ、エクアドル、ギリシャなど、同じく自由を求めて戦う人々の大義を支援してきました。だからこそ、ハイチが地震に見舞われた際、世界中の国々が、勇気ある支援者であるハイチ国民への連帯感から体を震わせました。ハイチは、誰もが尊厳をもって暮らせるインクルーシブで公平な社会の実現を強調するために、今回この万博に参加しました。私たちは地震や台風、ギャングによる暴力といった世界的な課題に直面したとき、いかにして命を救うことができるかを示したい、ハイチ人の強靱な回復の経験を世界の人々と分かち合いたいと思っています。



二つの国が共有する一つの島

ハイチ共和国(総面積27,750平方キロメートル)とドミニカ共和国(総面積48,442平方キロメートル)に分割される以前、イスパニョーラ島(別名アイティ)にはタイノ人が住んでおり、その文明はアマゾンの人々と結びついていました。この島はまずスペイン人によって植民地化され、西部はフランス人によって植民地支配されました。それゆえ、ライスウィク条約(1697年)以来、西にフランス、東にスペインの領土を隔てる国境が存在し、これが後の2つの独立国家の基礎となりました。この地では、最も激しい文明の衝突が勃発しました。原住民の大量虐殺に続き、スペイン人によって鉱山や農園労働で酷使され、疲弊しきったタイノ人に代わって、アフリカから大量に送り込まれた人々の奴

隷化が始まりました。1804年1月1日にハイチの独立を宣言したとき、先住民軍の総司令官であったジャン＝ジャック・デサリーヌは奴隷制を廃止し、ここに避難してきた逃亡者全員にハイチ国籍を与えることで、「アメリカの仇を討った」と感じました。ハイチ人が自国を自由の母(Ayiti se man man libète)と呼ぶのはこのことが理由となっています。



緯度による影響

ハイチは緯度の関係から熱帯性気候に属します。平均気温は、最も涼しい月(2月)の夜間は22度、最も暑い月(7月)の日中は32度の間で変動しますが、標高や海との位置関係により、また地域によって状況は大きく異なります。ラ・セル山脈のフルシーでは、冬には気温が16度まで下がることもあります。

地形の多様性と気候の変動が相まって、複雑な環境や生態系が形成されていますが、1年は大きく2つの季節に分かれ、5月から11月までが雨季、12月から4月までが乾季となっています。北部の山岳地帯では年間降雨量が2,000ミリを超えることもあるものの、サバンナ地域(Savane Désolée)の年間降雨量は600ミリ以下で、半乾燥地帯となっています。本来の植生は熱帯雨林であり、多様な種が生息しています。ハイチは、プエルトリコからキューバを経由してバハマまで伸びる大アンティル生態回廊の一部で、この地域全体の循環と生態系のバランスにとって極めて重要な地となっています。大きな渡り鳥が、大陸を北から南へ横断する際の中継地点であり、特定の種にとっては補給地点となっています。固有種の中には、森林伐採が進み、生息地が失われたことにより、絶滅の危機に瀕しているものもあります(木生シダ、高所に生息する両生類、ヤモリ、猛禽類、下生えに生息するハチドリ)。



2010年、ポルトープランスで倒壊した建物

2010年、ポルトープランスで倒壊した建物
ハイチは2つの大きな断層を抱え、1842年のカプ・ハイティエン地震や2010年のポルトープランス地震のように、壊滅的な津波をもたらす地震を引き起こします。1842年の地震では、当時1万人いた住民のうちの5,000人という、人口の半数が死亡し、サン＝スーシ城が破壊され、甚大な物的損失が生じました。2010年の地震では25万人以上が死亡し、ハイチ史上最悪の自然災害となりました。この死者数は、1791年から1803年11月18日にヴェルティエールで勝利するまで12年間続いた独立戦争の犠牲者総数に匹敵します。



リンベでのキャッサバの調理

リンベでのキャッサバの調理。このキャッサバを使ったガレット(古代タイノ族の伝統から受け継がれる円形の平たいパン)は、文化の波を超えて受け継がれる連続性の象徴です。絶滅に瀕し最後に残ったタイノ人や、カリブ海の鉱山、植民地農場で働くためにアフリカからやってきた人々を飢えから救ったこの菓子は、仲間同士で分かち合った謙虚な気持ちと先祖から伝えられたノウハウの象徴となっています。今日、このキャッサバは洗練された古くからの料理の一種であり、その味は民族の連帯と共感の歴史を想起させるものとなっています。人々に日常的に食される国民食であり、美食家の食卓にも庶民の食卓にもなるこの菓子は、時代や文化を超えて分かち合う仲間の証でもあります。

